

公益社団法人 日本臨床細胞学会
2021年度第4回理事会 議事録

日時： 2022年3月12日（土） 13:00-16:00
場所： 日本臨床細胞学会事務局 会議室
WEB 同時開催

役員総数： 42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数： 理事 36名

（理事）佐藤 之俊、齋藤 豪、進 伸幸

インターネット会議システムにより出席

（理事）青木 大輔、阿部 仁、有廣 光司、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、伊豫田 明、植田 政嗣、大平 達夫、岡本 愛光、小田 瑞恵、川名 敬、澁木 康雄、生水 真紀夫、田尻 琢磨、田畑 務、都築 豊徳、長尾 俊孝、中村 直哉、羽場 礼次、廣岡 保明、藤井 多久磨、前田 一郎、松浦 祐介、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森谷 卓也、矢納 研二、山口 倫、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道

出席総数： 監事 3名

（監事）長村 義之

インターネット会議システムにより出席

（監事）佐々木 寛、土屋 眞一

（総務委員会委員）山下 博

（総務委員会幹事）片岡 史夫、星 利良

（制度審議委員会幹事）佐々木 陽介

（国際交流委員会幹事）西野 幸治

（中田公認会計士事務所）中田 ちず子

本理事会は、定足数を満たしたので有効に成立した。

テレビ会議システムにより、出席者の音声が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いのできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については*印を付す。

本理事会の開催にあたり、*佐藤之俊 理事長、*森井英一 副理事長[総括、事務局運営、編集]、齋藤豪 副理事長[専門医制度、専門医、臨床研究]、中村直哉 副理事長[認定試験、

検査士、教育]、岡本愛光 副理事長[財務、渉外]の挨拶および報告が行われた。

*理事長報告・挨拶 (佐藤 之俊)

本年度の学術集會も、with コロナの時代の学術集會のあり方としてハイブリッドの形で行われた。資格試験に関しては、専門医および検査士試験が担当委員の皆様のご協力のもと終了したが、とくに検査士試験のあり方については本日議論をお願いしたい。また、本日は来年度予算および事業計画についての審議をお願いしたい。

*副理事長報告 (齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、森井 英一、岡本 愛光)

齋藤 豪 副理事長： 細胞診制度管理アドバイザーの立ち上げを進めており、ご協力をお願いしたい。

中村 直哉 副理事長： 昨年の検査士試験で不都合があった。その内容と対策については、都築委員長 (細胞検査士委員会) より本日説明をしていただく。

森井 英一 副理事長： 事務の効率化や会員の利便性を考慮し、オンライン、ペーパーフリーの方向性で進めている。直近では、次年度の評議員の申請をwebへのアップロードに変更し、審査も審査員がオンデマンドで実施可能な形に変更した。

岡本 愛光 副理事長： 本日は、2022年度の予算案の審議をお願いしたい。セミナー、ワークショップ、試験、理事会、その他の会等、引き続きコロナウイルスの蔓延の影響を考慮して対策を行うことを前提として、田畑委員長 (計理委員会) を中心に予算案を作成していただいた。収支相償を含め適切な予算案とするためご審議をお願いしたい。

前回 (2021年度第3回理事会) 議事録について

2021年度第3回理事会の確認が行われた。

総務庶務報告 (2022年1月18日現在)

全会員数：12,875名

(正会員 5,733名、準会員 6,897名、名誉会員 39名、功労会員 191名、図書会員 15件) 細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,057名 (実数)

(認定：細胞診専門医 3,864名、細胞診専門歯科医 104名)

FIAC：111名 MIAC：35名

細胞検査士数：7,917名 (実数) (認定 10,636名)

CT(IAC)：3,921名

物故会員 (2021年11月2日～2022年1月18日)

功労会員 伊東 英樹 殿

佐藤 重美 殿 (公益財団法人青森県総合健診センター)

準会員 ^{はたけやまりようき} 畠山良紀 殿 ((株)江東微生物研究所 千葉支所)
^{やまもと みちこ} 山本 倫子 殿

黙祷

会費滞納者

3年滞納者：専門医10名、医師67名、検査士42名、技師12名

上記については、2022年春期大会中の理事会で資格停止について検討される予定

復会希望者（2名）

^{くまがい なおや} 熊谷 直哉 (弘前大学医学部附属病院 病理部)

^{ふるの あつこ} 古野 敦子 (横須賀共済病院 産婦人科)

復会の可否については、2022年春期大会中の理事会で検討される予定

大会準備状況

第63回春期大会（岡本 愛光、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール、2022年6月10日（金）～12日（日））、第61回秋期大会（伊藤 潔、仙台サンプラザホテル・ホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日（土）～6日（日））、第64回春期大会（藤井 多久磨、名古屋国際会議場、2023年6月9日（金）～11日（日））、第62回秋期大会（横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023年11月4日（土）～5日（日））、第65回春期大会（森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7日（金）～9日（日））、第63回秋期大会（進 伸幸、幕張メッセを予定、2024年11月16日（土）～17日（日））の準備状況に関する報告が行われた。

総務委員会（委員長 進 伸幸）【資料1～2】

〔事業計画〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。
2. オンライン選挙システム導入の準備を進める。

〔報告事項〕

1. オンライン選挙システム導入について、2021年11月に通信委員会を開催し、資料1のように要検討事項をとりまとめた。（資料1）
2. 2021年度 日本医学会連合 加盟学会連絡協議会
コロナ禍の Web 学会時代のオンライン配信特にオンデマンド配信における学会発表の知的財産権について（資料2）

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 伊豫田 明）【資料 1～5】

〔事業計画〕

1. 学会ホームページ、マイページの改善

〔報告事項〕

1. 2022年1月14日 事務局より情報処理委員会委員長へ下記報告あり

「以前よりホームページに度々障害が発生しており昨年末にはその頻度が高くなったために調査を行いました。原因は、委託先だった「コングレ」が事業から撤退したためにメンテナンスが行われない状況が続いており、サーバー内に多数の不整合が発生していることでした。また、コロナ禍前まで運用しておりました旧マイページの欠陥（大会、研修参加情報・会費支払い状況等が正しく表示されない）を改善すべく準備を進めてまいりましたが、コロナ禍への対応を優先したために中断しておりました。参加情報等は、本年2月に公示される評議員選出に必要なため改善作業の実施を急ぐように佐藤理事長からご指示をいただきました。」

「ホームページ、マイページとも2016年から外部業者への委託となり、ホームページは「コングレ」、マイページは「マイス・ワン（コングレの子会社）」が運営して参りました。2019年に「コングレ」がホームページ事業から撤退することになり、以降の運営は「コングレ」の下請け会社であった「アंकベル・ジャパン」が引き継ぎましたが、機能の追加等に対応できたのですが、システムのメンテナンスはできませんでした。マイページは導入当初から障害が多発し、技術者や社長とも面談を行い、適切な対応を要請して参りましたが叶わず、同じく2019年に業者を「ワン・ワールド」に変更いたしました。2020年から、ホームページ、マイページとも改修に着手する予定でしたが、コロナ禍への対応が最優先となったために実施できないままになっていました。」（ここまでが事務局報告の抜粋）

佐藤理事長、森井副理事長と相談の上、今年度の評議員選挙は、現在の担当業者に依頼し、評議員選出に必要な情報はマイページの中に掲載できる「事務局からのお知らせ」の欄に表示することで対応することとなった。

情報処理委員会としては、学会ホームページが適切に運用できる業者の選定作業を開始した。現状は、学会事務局から推薦の2社の見積もりがあるが（資料1,2,3）、追加して見積もりを依頼する業者の推薦、各業者へ追加資料として依頼する事項（これまでの実績、セキュリティ対策など）が提出され（資料4,5）、さらに追加質問等を施行した。マイページについては今年度の評議員選挙には間に合わないため、上記の対応を行い新たな業者の選定等については評議員選挙後検討する予定である。

〔審議事項〕

1. 学会ホームページの運用業者の選定作業については、委員会で審議の結果、豊富な実績のある INTER GROUP 社を推奨することとなった。

審議結果⇒承認（INTER GROUP 社に業務を委託する方向で進める。）

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料 1～6】

〔事業計画〕

1. 2022 年度 学会賞・技師賞・班研究課題、最優秀論文賞の募集及び選考を行う。
2. 班研究に対するグラントナンバーを作成する。

〔報告事項〕

1. 2021 年最優秀論文賞募集中：1 月 14 日（金）-2 月 16 日（水）
※最優秀論文賞は正式な発行年月日が付与された論文を受け付けることとした（和文：2・英文 11 の申請があり、現在審議中。次々回の理事会で報告予定。）
2. 学会賞・技師賞・班研究課題の応募結果のイエローページへの掲載。
3. 2022 年 2 月 8 日「2021 年度日本医学会分科会用語委員会」に参加した。（資料 1～6）
 - ・ ICD-11, 2022 年発刊予定
 - ・ 医学用語辞典 web 版 ID PW は事務局でもっている。個人アカウントも作成可能
→ 理事の先生方に ID, PW をメールさせていただいた（2022/2/18）。

〔審議事項〕

1. 最優秀論文賞選考委員数変更について

学術委員会 5 名 → 6 名

編集委員会 5 名 → 5 名

審議結果⇒承認

計理委員会（委員長 田畑 務）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 学会の経理について、正しく運営されるよう確認を行う。
2. 決算案、予算案の作成を行い、春・秋と 2 回の監査会を行い会員に報告をする。
3. 報酬等の支給及び支出基準の更新および経理基準を作成していく。

〔報告事項〕

1. 計理委員会では「計理」と「経理」の両方の文言を使用しており、統一した方が良いのではないかとの意見が出された。その後、佐藤理事長より管轄官庁に問い合わせたところ、現在のままでよいとのことであった。

2. 細胞診専門医会に関する施行細則の中で、「専門医会の収支決算書の理事会への報告は、専門医総務会での承認後、会計担当者に確認してから報告すること」となっている。本件については、専門医会と検査士会でさらに検討することとなっている。

〔審議事項〕

1. 2022年度予算案(0.03_2022年度予算(案))
交通費については、昨年度は約1,000万円余剰となったことを受けて、削減予算となっている。

審議結果⇒承認

質疑：個々のセミナーの収支について・・・内閣府への報告は、セミナー全体のものが記載されている。

2. 収支相償剰余金および「(仮)法人10周年化記念事業」の時期及び規模について

審議結果⇒承認(佐藤理事長より説明があり、承認された。)

編集委員会(委員長 矢納 研二)【資料1～3】

〔事業計画〕

1. 年間6回の電子ジャーナルの刊行、依頼稿年間6本を予定。
2. 春期大会、秋期大会開催中に2回、それ以外に4回の編集委員会を開催予定。
3. Editorial Managerの広報、査読実績を評議員申請に反映させるシステムの完成、査読体制の改善を図る。さらに、学会内外からの投稿論文数の拡充を図る。
4. 日本臨床細胞学会学術集会(春期大会、秋期大会)発表の一部を、あらかじめ日本臨床細胞学会雑誌上への投稿義務付けとする規約を、学術委員会と共同で設定する事業を開始。【資料3】

〔報告事項〕

1. 2021年1月から12月に53編の論文が投稿され、非採用3、採用36、編集作業中14。
【資料1】現在、昨年度よりさらに少ないペースの投稿数である。
2. J-STAGE運用に関する広報活動を、編集委員会幹事を主体として検討中(ホームページにQ&A形式の記事を掲載予定)

〔審議事項〕

1. 論文投稿時チェックリストバージョンアップについて【資料2】
 - ・投稿規定と文言を一致させた。
 - ・チェックリストを横長→縦長へ変更した。

審議結果⇒承認

質疑：・本文の文字数制限が、英文と和文で同じでよいのか。・・・文字数については、実

状は厳格な制限は設けておらず、あくまで目安と考えていただきたい。

- ・英文校正の要否について・・・一部には非常にクオリティーの低い英文で投稿が行われる事案があり必要性があると考え。

2. 日本臨床細胞学会学術集会（春期大会、秋期大会）発表の一部を、あらかじめ日本臨床細胞学会雑誌上への投稿依頼する件について。

審議結果⇒継続審議

質疑：・学術集会長が、特別講演、招聘講演、要望講演、教育講演の中から総説を依頼する方向で検討する。

- ・執筆料を検討してはどうか・・・学会員に対しては支払わない方針で考えている。日本婦人科腫瘍学会雑誌でも学会員の場合に執筆料の支払いはない。
- ・2023年春期大会（藤井大会長）で試験的に実施し、結果を踏まえ再検討する。当初は論文の数的制限は設けずに試行する。

細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）【資料 1-3】

〔事業計画〕

1. 令和3年度教育研修指導医新規申請および資格更新
2. 令和4年度細胞診専門医資格更新
3. 令和4年度細胞診専門医資格認定試験

〔報告事項〕

1. 令和3年度細胞診専門医資格認定試験

令和3年12月18日（土）にAP浜松町で実施した。今回の試験も筆記試験および細胞診断試験（プリント問題）は従来通り、検鏡試験はバーチャルスライドで行った。総合科162名、歯科11名が受験した。合格率は総合科93.2%、歯科90.9%であった。前回と同様にバーチャルスライドを用いた試験は問題なく実施できた。受験者のアンケートでは、課題であったバーチャルスライドの、「PCの操作性」、「画質」、「焦点深度」は昨年よりも評価は改善されていた。

2. 令和4年度細胞診専門医資格認定試験

12月17日（土）AP浜松町にて実施予定。会場は既に仮予約済み。

細胞診専門医資格認定試験委員長を近内 勝幸先生とする。

ソフトウェアのカスタマイズ、および永年契約のソフトの購入予定。これまでの採点作業で必要であった手作業が軽減し、人為的な採点間違いのリスクを減らすことが可能となり、また永年契約により毎年支払っていた更新料は不要となる。

3. 令和3年度細胞診専門医資格更新（資料1）

今年度の対象者ナンバーは、0774-0899、1171-1241、1447-1509、1711-1797、2160-2274、2578-2672、2962-3051、3326-3404、8001-8017、8046-8055である。5年毎更新の新単

位制度による2回目の資格更新となる。12月27日(月)にweb申請を締め切り、2月11日(金・祝)にweb会議にて資格更新審査を行なった結果、全更新対象者数649名中、更新可571名(88.0%)、前回保留更新で今回60単位以上取得4名(0.6%)、単位OK要審査7名(1.1%)、単位不足要審査17名(2.6%)、未申請41名(6.3%)、更新辞退・退会済9名(1.4%)であった。要審査24名と未申請41名に対して対応中である。

4. eラーニングについて

eラーニングシステムを構築し2019年2月より運用を開始した。現在までに共通講習34コンテンツ(含 指導医講習8コンテンツ)、領域講習58コンテンツ、検査士講習18コンテンツをアップした。

[審議事項]

1. 細胞診専門医資格更新中の認定期間延長について(資料2)

審議結果⇒承認

2. 細胞診の精度管理アドバイザーについて(資料3)

学会毎に行われる教育講演にて、A 子宮がん検診の精度管理、B 婦人科細胞診と分子生物学的マーカー、C その他(公的検診と職域検診の管理、啓蒙活動など)の各項目の講習会を受講した後に「細胞診の精度管理アドバイザー(子宮がん検診)」と認定される。

審議結果⇒承認

質疑：・検診(スクリーニング)としての細胞診と診断的な細胞診の違いを明確化すべき。

施設認定制度委員会(委員長 廣岡 保明)【資料なし】

[事業計画]

1. 新規施設認定審査(施設認定、教育研修施設認定) 申請書提出締切：2022年4月30日(土)
2. 認定施設更新審査(認定施設、認定教育研修施設) 申請書提出締切：2022年3月31日(木)
3. 2021年度・年報提出依頼とその集計解析(認定施設、教育研修施設) 年報提出締切：2022年3月31日(木)
4. 2022年度・内部精度管理(実地調査 4カ所)：内部精度管理WG(浦野誠WG長)のもとで2022年7~9月頃実施予定(コロナ禍が遷延した場合は書類審査予定)
5. 外部精度管理(全認定施設でコントロールサーベイ)：外部精度管理WG(湊宏WG長)のもとで、2022年度に実施予定(2年毎に実施)
6. 2022年度 年報会議、内部精度管理WG、外部精度管理WGを行う

[報告事項]

1. 2021年度新規施設認定について ※締切：2021年4月30日(木)
8施設の申請があった。審査の結果、5施設が認定、3施設が条件付き認定となったが、

その後3施設より条件の改善の報告があったため、2022年2月時点で条件付き認定の3施設を通常の認定に変更した。

2. 2021年度新規教育研修施設認定について ※締切：2021年4月30日(木)
4施設の申請があり、審査の結果4施設すべて認定となった
3. 2021年度認定施設更新状況（最終報告）
更新対象認定施設なし
4. 2021年度教育研修施設更新状況（最終報告）
全17施設(更新対象認定施設番号:0173-0179, 0319-0329)中、更新完了:17施設(100%)
(認定証発送済み)
5. 2020年度施設年報提出状況（2021年8月3日現在）
全857施設中 提出：845施設(98.6%)、未提出：12施設(1.4%)
6. 2020年度教育研修施設年報提出状況（2021年7月26日現在）
全328施設中 提出済：326施設(99.4%)、未提出：2施設(0.6%)
7. 内部精度管理（実地調査）について
2021年度内部精度管理はコロナ禍のため実地調査は困難と判断し、書類審査を4施設（横浜市立大学附属市民総合医療センター、公立学校共済組合近畿中央病院、千葉徳洲会病院、株式会社中部パソロジー）に行っている。
8. 外部精度管理（コントロールサーベイ）について
第8回コントロールサーベイを2020年度に実施した。2021年度は実施せず（2年毎）
9. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えたら理事会に諮る。
 - ・施設認定に関する施行細則の整理について
 - ・施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
 - ・施設認定に関する申請料について
10. その他
佐々木元幹事が、2019、2020年度ともに年報が提出された765施設を対象として、コロナ禍による業務量の増減について解析し、その結果を、第60回日本臨床細胞学会・秋期大会（2021年11月）で報告した。現在、この報告内容を論文化している。内容は、【2019年度に比較して2020年度では全体に検体数は減少した。特に呼吸器と健診が顕著に減少した。大学病院は1割減少したがベセスダ分類以外の婦人科（内膜細胞診）は増加した。一般病院はすべてで減少した。検診機関では検体数が著明に減少した。登録衛生検査所は消化器、乳腺・甲状腺が2020年度に減少した。学会参加数は地方において減少した。】

[審議事項]

1. 2019、2020年度ともに年報が提出された765施設を対象とした、コロナ禍による業務量

の増減についての年報データを用いた解析結果の論文化について。

審議結果⇒承認

細胞検査士委員会（委員長 都築 豊徳）【資料1～2】

〔事業計画〕

1. 2022年度(第55回)細胞検査士資格認定試験
一次試験は2022年10月29日(土)
CIVI研修センター新大阪東・新丸ビル別館で実施予定。
二次試験は2022年12月3日(土)、4日(日)
ウイנקあいちで実施予定。

〔報告事項〕

1. 2021年度(第54回)細胞検査士資格認定試験
一次試験は2021年10月30日(土)にて、CIVI研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施した。受験者数625名(志願者629名、欠席者4名)で、合格者は405名(合格率64.8%)であった。
二次試験は2021年12月4日(土)・5日(日)にて、虎ノ門ヒルズフォーラムにて実施した。二次試験受験対象者は559名(内訳:今回の一次試験合格者405名および一次免除者154名)で、全体の受験者数558名(1名欠席)であった。今回は受験生が多かったことから、受験グループが4グループで収まらず、5グループとなった。その対応として、4日は午前・昼・午後の3グループ、5日は午前・午後の2グループで実施した。合格者は309人(合格率は55.4%であった)。
二次試験初日に解答用紙の一部に落丁が存在することが判明し、試験開始が遅れた。本件の問題点並びに改善点及び細胞検査士試験の問題点を資料1に示す。対策としては、①試験問題の作成ならびに確認に複数の委員が参加し内容の確認を行う。②参加する委員の数を増やす。③問題文のバックアップファイルを複数名で共有する。
また、呼吸器の問題において、採点を委託した外部業者へ渡した結果に取り違いがあり、再採点が必要となり判定結果が遅れた。これに対する対策としては、①複数の担当委員で確認を行う。②同定とスクリーニングの問題数に差を設け、取り違いを未然に防ぐ。
二次試験において、呼吸器領域では試験問題の難易度は低下しているにもかかわらず点数が低下していた。また、婦人科領域では昨年と同じ問題が出題された問題において正解率が低下していた。
2. 2021年CT(IAC)資格認定試験
2023年へ延期の方針となる。(コロナの収束が見込めないため)
3. 本法人認定の細胞診技術者養成機関である「東京都がん検診センター細胞検査士養成所」が、2021年度の受講生の卒業をもって閉講する。(資料2)

[審議事項]

1. 二次試験の問題の妥当性および受験生のレベル低下の可能性について。

審議結果→当学会の社会的責務として検査士のクオリティを維持するというコンセンサスのもとに対応していく。

質疑：・受験生の質の向上のため、学会としてデジタルコンテンツの供給を考慮してはどうか。→学会として教育をどうするかについては重要なことであり検討を進めていく。

・一定程度過去と同じ問題を出題しその正答率で合格率を検討することを考慮してはどうか。

・細胞検査士養成所または大学の細胞検査士養成コース修了者のレベルはどうか。→具体的にデータを取っていないので不明。

・講習の有無や地域差についてデータを取れるシステムを作っていく。

・コロナ場において検査士の実技試験が行えない中で、将来的に地方に同業務を担当していただく方向で進める。

細胞検査士資格更新審査委員会（委員長 井上 健）【資料1】

[事業計画]

1. 2022年度細胞検査士資格更新作業

1-8、9-68、195-272、440-584、913-1060、1354-1557、2259-2457、
3120-3457、4210-4452、5135-5349、6051-6203、6749-6943、7686-7876、
8613-8869、9559-9879

[報告事項]

1. 2021年度細胞検査士資格更新作業

138-194、364-439、760-912、1147-1353、2068-2258、2913-3119、3932-4209、4942-5134、
5813-6050、6574-6748、7450-7685、8318-8612、9365-9558（グリーン・カード：1,807
名）

2021年細胞検査士資格更新審査結果のまとめ（2022年2月26日（土）実施）

審査結果は、

更新可 1631名（90.3%）

条件付更新可 8名（0.4%）

保留更新 2名（0.1%）

単位不足にて追加書類提出依頼・支部所属確認等を行う 18名（1.0%）

事情説明書を出していただき後日再審査 2名（0.1%）

未申請 69名（3.8%）

更新辞退 27名（1.5%）

退会済・退会申請中 48名（2.7%）

逝去 2 名 (0.1%)

上記の内、単位不足にて追加書類提出依頼・支部所属確認等を行う 18 名には連絡済みで、追加書類等提出いただいた結果、更新可 13 名、条件付更新可 1 名、最終確認中 4 名。

事情説明書を出していただき後日再審査の 2 名は、事情説明書が提出され委員会で再審査の結果、2 名とも更新可。

未申請の 69 名へはレターパックプラスにて最終意思確認をし、期限 (2022 年 3 月 31 日 (木) 必着) までに応答の無い者は資格失効とする。

〔審議事項〕

1. 「細胞検査士資格更新審査委員会申し合わせ事項」改定について (資料 1)

審議結果⇒承認

教育委員会 (委員長 生水 真紀夫) 【資料 1】

〔事業計画〕

1. 細胞診断学セミナーおよび細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップ・細胞検査士養成講習会を企画・実施する。
2. 日本肺癌学会肺がん検診委員会と共同で喀痰細胞診標準細胞表本の管理・貸し出し業務を行う。

〔報告事項〕

1. 細胞診断学セミナー・細胞検査士教育セミナー・細胞検査士ワークショップ・検査士養成講習会は、コロナ感染状況をみて Web 開催への変更を含め決定する。(資料 1)
第 47 回診断学セミナーは、現時点では講習部分を web 開催、鏡検部分は 2022 年秋期大会での開催を検討中である。

〔審議事項〕

なし

渉外・広報委員会 (委員長 三上 芳喜) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。

〔報告事項〕

1. HPV ワクチン積極勧奨再開に関する理事長声明を学会ホームページに掲載した。
2. 一般財団法人医療関連サービス振興会の令和 3 年度第 3 回衛生検査所調査指導中央委員会に副委員長として出席した（三上）
3. 一般社団法人シンクパールより「NIPPON 女性からだ会議」の後援名義使用申請があり、了承した。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料 1】

〔事業計画〕

1. 2024 年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚労省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。

〔報告事項〕

1. 2022 年診療報酬改正にかかる医療技術評価提案書 9 項目を内保連から厚生労働省に提出した。

未収載項目

1. 感染対策加算
2. 細胞診精度管理料
3. 婦人科子宮頸部細胞診自動判定支援加算
4. 国際標準病理診断管理加算

既収載項目として

1. 細胞診断料の見直し、婦人科細胞診への適用拡大
 2. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大
 3. 免疫染色、細胞診標本への適用拡大
 4. 液状化検体細胞診加算の見直し
 5. 迅速細胞診（検査中の場合）、適用疾患の拡大
2. 令和 3 年 7 月 19 日に厚生労働省のヒアリングが開催された。追加資料を 7 月 26 日に提出した。
 3. 令和 3 年 11 月 26 日 自見はなこ 参議院議員、中田勝巳 厚生労働省医療技術評価推進室長に診療報酬改訂にかかる陳情を行った。
 4. 令和 4 年 1 月 18 日、令和 3 年度第 2 回診療報酬調査専門組織（医療技術評価分科会）が開催され、評価の対象となる技術（案）が公表された。全体の採択率は 12%。今回、

日本臨床細胞学会から提案した医療技術はすべて評価の対象外となった。

5. 令和4年3月4日 2022年度診療報酬改訂が公示された。
 - N006 病理診断料 1 組織診断料 520点 (+70点)
 - N007 病理判断料 130点 (-20点)
 - 画像診断情報等の適切な管理による医療安全対策に係る評価の新設
報告書管理体制加算(退院時1回) 7点

現在、改定の矛盾点・問題点についての調査が内保連より来ており、病理判断料の切り下げについては申し立て予定。

[審議事項]

1. 2022年診療報酬改訂において画像診断報告書や病理診断報告書の確認漏れによる診断又は治療開始の遅延を防止する取組について評価がなされるようになる。当学会としても細胞診結果報告書の確認漏れに対する対策についての研修会の開催、実際の報告書確認の手順などを医療安全委員会が中心になって会員各位に周知していただきたい。

審議結果⇒承認

質疑：

- ・ 社会保険委員会より具体案を出した上で、医療安全委員会において検討する。
- ・ 細胞検査士、放射線技師、医師、病院管理者も含めた会議体が必要になることも含め周知し対応すべきである。
- ・ 次回の診療報酬改定に向けての当学会としての戦略について
特に婦人科細胞診において、癌検診(ドックなどの自費部分)と保険診療で行う細胞診を切り分ける方策を考える必要がある。

地域連絡委員会(委員長 伊藤 潔)【資料なし】

[事業計画]

1. 2020年度地域学会・連合会活動報告の回収および集計を行う。
(締切：2022年3月中旬)
2. 地域連携組織に対する活動支援について地域学会を通して行うための申請・審査を進める。

[報告事項]

1. 2019年度、2020年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
 - 1) 2019年度報告書の不明部分を再度問合せし、修正中。
 - 2) 2020年度報告書の提出の案内は、2022年2月より開始予定である。
2. 地域連携組織に対する助成金による支援(子宮の日)について：

- 1) 2021 年度の活動支援の申請件数 41 件 (47 県中)
(申請なし 6 件: 富山県、滋賀県、鳥取県、岡山県、山口県、長崎県)
実施内容報告書を提出した地域学会に支援を行う。
助成金の交付は上限 5 万円を上限とした。
2022 年 1 月 25 日現在 調査集計 内訳 (申請件数 41 件)
開催中止: 2 件 (北海道・愛媛)
開催実施済: 31 件
開催予定 (現在開催中も含む): 1 件
未定 (問い合わせ中): 7 件
- 2) 2022 年度の地域連携組織に対する活動支援は、支援費用については 5 万円を上限とし、希望地域は 2022 年 3 月末日までに、企画書を提出するように依頼する。

〔審議事項〕

なし

国際交流委員会 (委員長 榎本 隆之) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会; 2022 年 6 月 10 日 (金) ~12 日 (日); 東京
→ テーマ・演者ほぼ決定 開催様式は主催校で検討中
→ 新型コロナウイルスの蔓延により講演の中止が決定
(参考)
第 62 回日本臨床細胞学会総会春期大会; 2021 年 6 月 4 日 (金) ~6 日 (日); 千葉
→ real での海外演者の招聘はなし
第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会; 2021 年 11 月 20 日 (土) ~21 日 (日); 米子
→ 開催見合わせ
第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会; 2022 年 11 月 5 日 (土) ~6 日 (日); 仙台
→ 開催見合わせ
2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス (合同会議) のサポート
第 19 回日韓細胞診合同会議 ; 2021 年 9 月 4 日 (土) 韓国 → 2022 年に再延期
第 28 回日-タイ細胞診ワークショップ
会期: 2022 年 1 月 19 (水) ~21 日 (金) Shangri-La Hotel, Chiang Mai, Thailand
は新型コロナウイルスの世界的蔓延および日本政府による海外渡航制限などの影響より再び「中止」に、再開は 2023 年 01 月を予定・検討中
3. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2021 の企画、運営
2021 年秋頃 (未定) としていたが、米国との往来が可能になった時点で再考予定

4. IAC, ECC のサポート
Companion Meeting Japan in ECC 2020 ; →延期され hybrid 開催
2021 年 10 月 3 日(日)～6 日(水) ポーランド・ヴロツワフ (日本から web 参加にて講演)
5. オーストラリアとの交流
6. カンボジアとの交流サポート
学術集会への招請として 2 名分のトラベルグラントを計上・準備したものの現状困難
7. 国際交流に関わる海外情報の収集および本学会からの発信

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

制度審議委員会 (委員長 宮城 悦子) 【資料 1～4】

〔事業計画〕

1. 成熟した社会に則した本法人のあり方を常に考え、学会内外から広く意見、提案を聴き、必要な制度改革を提案するとともに、本法人内においては各委員会等からの制度に関するコンサルテーションを受け、必要な提案を行う。
2. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施、及び内規・申合集等保管文書管理を行う。

〔報告事項〕

1. 編集委員会より審議依頼があった「投稿規定チェックリスト」について令和 3 年 12 月 3 日(金)より 12 月 12 日(月)にメール審議を行った。内容は資料 1 議事録参照。
2. 編集委員会より審議依頼があった「投稿規定」改定について令和 3 年 12 月 24 日(金)より令和 4 年 1 月 7 日(金)にメール審議を行った。内容は資料 2 議事録参照。(編集委員会より資料と変更点の説明予定)
3. 倫理委員会より審議依頼があった「学会発表・論文投稿倫理指針」「別紙フローチャート図」について令和 4 年 1 月 9 日(日)より 1 月 16 日(日)にメール審議を行った。内容は資料 3 議事録参照。(倫理委員会より資料と詳細の説明予定)
4. 細胞検査士資格更新審査委員会より審議依頼があった「細胞検査士資格更新審査委員会申し合わせ事項」改定について令和 4 年 2 月 28 日(月)より令和 4 年 3 月 7 日(月)にメール審議を行った。内容は資料 4 議事録参照。(細胞検査士資格更新審査委員会より資料と変更点の説明予定)

5. 第3回理事会にて承認された以下の7項目の改定を行った。

- ① JSCC 内規・申合集 p.7 「公益社団法人 日本臨床細胞学会報酬等の支給及び支出基準要綱」
- ② JSCC 内規・申合集 p.10-11 「公益社団法人 日本臨床細胞学会に対する寄附金お振込依頼」
- ③ JSCC 内規・申合集 p.19 「公益社団法人 日本臨床細胞学会投稿規定チェックリスト」
- ④ JSCC 内規・申合集 p.40 「投稿者の利益相反自己報告書」
- ⑤ JSCC 内規・申合集 p.51-53 「公益社団法人日本臨床細胞学会学術集会に関する大会計理マニュアル」
- ⑥ JSCC 内規・申合集 p.71 「印章取扱規約」
- ⑦ JSCC 内規・申合集 p.73 「経理規約」
- ⑧ 定款・施行細則 p.82 「学会発表・論文投稿倫理指針」

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）【資料なし】

〔事業計画〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく
(鑑定人およびそれに関する臨時の全域)

2. 医療安全セミナー開催予定

第63回日本臨床細胞学会総会春期大会

演題名： 未定

演者： 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部門

部門長 瀧浪将典先生

日時： 2022年6月11日(土) 15:40~16:40

〔報告事項〕

1. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく
(鑑定人およびそれに関する臨時の全域)

2. 医療安全セミナー開催

第62回日本臨床細胞学会総会春期大会

演題名： 細胞診と医療の質・安全を考える

演者： 群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学 教授 小松康宏先生

座長： 近畿大学奈良病院 病理診断科 部長 若狭朋子先生

日時： 2021年6月5日（土）15:40～16:40

第60回日本臨床細胞学会秋期大会

演題名： 病理検査室における医療安全 ISO15189の視点

演者： 岡山大学病院病理診断科 柳井広之先生

座長： 藤田医科大学医学部産婦人科学 教授 藤井多久磨

日時： 2021年11月20日（土）17:00～18:00

3. MSC ホットラインの活動報告

今期、MSC ホットラインへの相談実績はなかった。

4. 医療事故調査機構の情報について

日本臨床細胞学会への調査要請は今のところない。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 日本臨床細胞学会春期大会および秋期大会における倫理セミナーへの協力。

〔報告事項〕

1. 学会発表・論文投稿倫理指針の実装について、制度審議委員会に依頼した。倫理指針は細則に追加、別紙フローチャート図はホームページ上でのみで公表予定。
2. 佐藤理事長より依頼のあった「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」の倫理審査（各参加施設における倫理委員会承認済み）を行い承認した。

〔審議事項〕

なし

利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】

〔事業計画〕

1. 役員および発表者（非会員含む）の事業活動に係わるCOI状態の判断ならびに助言、指導。
2. 会員個人のCOI申告に関する疑惑が生じた時の調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告に関すること。
3. 2022年利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔報告事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導を行う。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 2022 年利益相反自己申告書の提出依頼をする。

〔審議事項〕

なし

臨床試験審査委員会 (委員長 小田 瑞恵)【資料 1～7】

〔事業計画〕

1. 臨床試験審査委員会を 1 回、春期大会で行う。Covid-19 感染の影響で委員会が開催されない場合は、メール会議などで代用する。
2. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。

〔報告事項〕

1. 現在、「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS スタディ)(臨床試験主任研究者、青木大輔先生)が進行中である。
2. 2022 年 2 月 18 日、佐藤理事長より日本臨床細胞学会における「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」の臨床試験審査の申し込み(資料 1. 2. 3. 4)があり、通信審査にて「おおむね適正であるが、一部付帯意見あり」(資料 5)と回答した。修正された研究計画書(資料 6)が提出され「適正である」(資料 7)と回答した。

〔審議事項〕

なし

IAC 連絡委員会 (委員長 青木 大輔)【資料 1～2】

〔事業計画〕

1. IAC からの諸情報等について検討し対応する。

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 15 日から 20 日まで米国 Baltimore にて開催される。the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催。Abstract の募集が開始された(case report は受け付けない)。〆切は 2022 年 5 月 2 日。積極的な参加を

お願いしたい。

2. 長村 義之監事より以下のアナウンスがあった。
 - ・ 学会ホームページ（フロントページ）のバナーより ICC2022 の Abstract 登録画面にスムーズに入れるように設定した。
 - ・ IAC プレジデントより IAC tutorial Sydney(4月1日～3日 オンラインライブ+オンデマンド：無料)の案内があった。会員への広報をお願いしたい。

〔審議事項〕

なし

臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸) 【資料1】

〔事業計画〕

1. 2022 年事業計画として 下記の研究事業を昨年度に引き続き継続する。
『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』（山梨県、千葉県柏市）の継続
2. 追跡調査：被験者の6年目の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表のために、研究期間を2023年3月31日までと2年間延長している。
3. データの解析、論文化：研究期間内を目途に作成。論文には本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。

〔報告事項〕

1. 上記の事業計画に基づき、追跡調査、データ解析を進めている。
2. 青木 大輔理事より、CITRUS study の進捗について以下の報告があった。
 - ・ 現在、検診部分は終了しフォローアップの段階である。
 - ・ 来年度前半までフォローアップを行い、来年上半期のデータ fix を目指している。

〔審議事項〕

なし

ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一)

【資料なし】

〔事業計画〕

1. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。

2. 検証結果をもとに指針を作製する。
3. 発出した指針をリニューアルする。

〔報告事項〕

1. 会議をオンラインで複数回行い、指針の初版を発出し、現在、英語版の校正を行なっている。並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を立てている。

〔審議事項〕

なし

ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ
(委員長 佐藤 之俊)【資料なし】

〔事業計画〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当する。

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当した。また、英文化の作業を進めた。
2. 液状化検体細胞診における検討を進める。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)【資料なし】

〔事業計画〕

1. IAC-WHO/IARCが進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力する。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、細胞所見のWEB公開を目指す。
4. 異型細胞に関する検討を進める。
5. 新たに提案した4段階の判定基準に関する検討を進める。

〔報告事項〕

1. IAC-WHO (IARC)が進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力した。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力した。

3. 構造異型の所見の標準化を目指し、細胞所見の WEB 公開を目指しパブリックコメントを募集した。
4. 本 WG において新たな 4 段階の判定基準を提案し、追加検討した結果が Acta Cytologica に採用となった。(Yoshizawa A et al. Cytology reporting system for lung cancer from the Japan Lung Cancer Society and the Japanese Society of Clinical Cytology: Extensive study containing more benign lesions)

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析する (継続)。
2. 成果を日本臨床細胞学会・日本乳癌学会・日本病理学会、ICC/ASC などで発表。
3. 結果を論文発表。
4. 乳癌取扱い規約への収載について働きかけを行う。

〔報告事項〕

1. 委員の施設から 1,727 病変のデータを収集し、分析を行った。
2. 結果について検討し、引き続き協議中である。(研究期間の延長を申請中)
3. 成果は学会発表 (ICC2022)、論文化の予定。

〔審議事項〕

なし

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也) 【資料なし】

〔事業計画〕

1. 改定した内容を学術集会で発表、および学会ホームページ等で公表する。
2. 2025 年の全面改訂に向けた課題を明らかにする。

〔報告事項〕

1. 12 月末までに、各小委員会で改定原稿を作成し、年度内の完成を目指しているが、現在検討中の小委員会が 2 領域残っている。
2. 揃った段階で相互チェックを行い、発表等を行う予定である。
3. 2022 年秋期大会において、3 領域に絞って解説をする機会を得た。

〔審議事項〕

なし

デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）【資料なし】

〔事業計画〕

1. デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況の調査
2. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

公益社団法人化 10 周年記念事業検討ワーキンググループ(委員長 佐藤 之俊)【資料あり】

〔事業計画〕

1. 理事長直属のワーキンググループを組織し、事業内容の詳細を決定し推進する。

〔報告事項〕

なし

〔審議事項〕

なし

その他

〔報告事項〕

1. 2023-2024 年度 評議員選出スケジュールの確認が行われた。

〔審議事項〕

1. 2022 年度事業計画案 (0.04_2022 年度事業計画 (案))
審議結果⇒承認 (佐藤理事長より説明があり承認された。)

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終

了し、森谷 卓也副理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2022年 3月 28日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊 

監事 長村 義之 

監事 佐々木 寛 

監事 土屋 眞一 